

第4回 鉄道における準天頂衛星等システム活用検討会 概要

1. 日 時： 令和2年2月19日(水) 10:00~11:30
2. 場 所： 中央合同庁舎3号館1階共用会議室
3. 出席者： 中村日本大学名誉教授、水間東京大学特任教授、古関東京大学教授、
鉄道事業者、関連団体、研究機関、
国土交通省鉄道局、交通安全環境研究所

4. 結果概要 :

第4回検討会では、事務局から、測位試験の結果、列車制御・保安分野検討WG及び保守・防災・サービス分野検討WGにおける検討結果、とりまとめ案について説明後、意見交換。とりまとめ案については、委員からの意見を踏まえ修正し、後日公表することとされた。委員からの主な発言は以下の通り。

※資料4-06については議論中であり、非公表とすることとされた。

- トンネル等で電波が遮断した後に再受信し、測位を再開するまでの時間も準天頂衛星等を活用する上で重要な項目の1つと考えられる。
- 保守分野において、準天頂衛星等による列車位置の測位結果が実際の位置よりも後方になると危険側に働く（予想よりも早く保守作業現場に列車が到達する）懸念もあるので、システムを設計する際にはこれらを踏まえ安全側に働くよう考慮すべきである。
- 「保守作業可能時間の増加」については、列車位置のほか、列車速度の情報も採り入れることで更なる増加に繋がる可能性がある。
- 測位結果が「単独測位による解」、「Float 解」、「Fix 解」のいずれかであることをリアルタイムに識別できるので、これを利用してシステムを設計することも考えられる。